

生徒のよさや可能性を引き出す

# 「深い学びの技法」

県中教研創設60周年記念講演会講師・田中 博之様(早稲田大学教職大学院)が提唱されている「深い学びの技法」を参照・引用

「深い学びの技法」を基に、生徒が主体的な課題解決過程に取り組む

「深い学びの技法」とは何か？またそのよさは何か？

「深い学びの技法」とは、生徒が高度な思考操作や認識の仕方などができるようになるための「学び方」になります。学習活動を通して、生徒が技法を使えるようになることで、深い学びに向かうようになります。

「深い学びの技法」を定着させるためのポイントは？

単元・題材で3～4つ程度を選び、組み合わせ、手立として活用しましょう。

目の前の生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き出すような技法になるように、教科・領域に応じてアレンジしてみてください。

生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。深い学びの質的な向上を期待できます。

過程	深い学びの20の技法
設定	①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する ②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする ③視点・観点・論点を設定して思考や表現をする ④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する
思考	⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする ⑥複数の資料や観察結果の比較から結論を導く ⑦視点の転換や逆思考をして考える ⑧異なる多様な考えを比較して考える
解決	⑨学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする ⑩仲間と練り合いや練り上げをする ⑪原因や因果関係、関連性を探る ⑫学んだ知識・技能を活用して事例研究をする
表現	⑬理由や根拠を示して論理的に説明する ⑭学習モデルを活用して思考や表現をする ⑮自分の言葉で学んだことを整理しまとめる ⑯要素的な知識や知見を構造化・モデル化する
評価	⑰既製の資料や作品を批判的に吟味検討する ⑱身につけた資質・能力をメタ認知し成長につなげる ⑲学習成果と自己との関わりを振り返る ⑳学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

START 生徒が課題を設定し、主体的な課題解決に取り組む

HOW

「深い学びの技法」を手立として講じる

生徒の主体的な課題解決過程

## 設定

## 思考

## 解決

## 表現

## 評価

GOALS 生徒が互いに学びを深める

新潟県中学校教育研究会

ホームページをぜひご活用ください



深い学びにいたる授業



県中教研について



授業づくり



指定研究



刊行物

- デザインを一新し、見やすさ、使いやすさを重視しています。スマホ、タブレット画面にも対応しています。
- 「授業づくり」のコーナーを設置し、先生方の授業づくりに役立つ情報を発信します！
- 創設60周年記念大会のオンデマンド配信、過去のClassのバックナンバーを閲覧できます！



【URL&QRコード】  
<https://niigata-chukyoken.jp/>

# 新潟県中学校教育研究会

【令和6年度】

- 会長 五十嵐守男(上越市立城西中学校 校長)  
 副会長 金山 光宏(新潟市立白新中学校 校長)  
 副会長 伊藤 法生(長岡市立東中学校 校長)  
 理事長 佐藤 靖子(新潟市立内野中学校 校長)

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度に発足しました。令和5年度に創設60周年記念を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、15の教科・領域の部があります。その中から毎年18～20の郡市と教科・領域を指定し、2年間で授業を研究し、提案する「指定研究」を行っています。

## 授業情報誌 第9号 Class・深い学びにいたる授業

発行日 令和6年10月1日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局  
〒950-0088 新潟市中央区万代1-3-30  
万代シティホテルビル  
(シルバーホテル)3階

TEL・FAX 025-290-2251  
E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp

印刷 有限会社東京プリント社  
表紙・デザイン・イラスト 上村 慎吾(県中教研事務局長)

ISSN 2189-8111



今年度、県中教研では、田中博之様（早稲田大学教職大学院）が提唱されている「深い学びの技法」を基に、「深い学びにいたる授業」を具体的に提案します。生徒が「深い学びの技法」を基に、自身のよさや可能性を伸ばし、主体的に課題解決に取り組むことを目指します。生徒それぞれのよさや可能性に応じて、「深い学びの技法」を活用し、生徒が学びを深めていくことは、「個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実」を図り、「深い学び」の質的向上につながります。

私たち教師も「深い学びの技法」を基に授業を構想し、実践し、振り返り、ファシリテーションで学び合いながら、「深い学び合い」を目指します。

**START** 教師が深い学びの生徒の姿を設定し、研究推進委員同士で研究に取り組む

「深い学びの技法」を基に、教師が「深い学び合い」のサイクルを回す

## 目指す生徒の姿の設定



## 目指す授業の構想



## 研究推進委員 同士による実践

## 研究会での 成果発表



## 研究成果の 共有



教師の主体的な学び合い

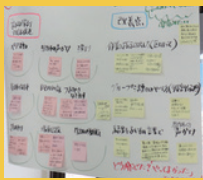
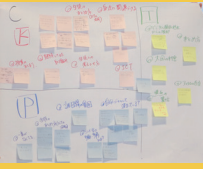

HOW

「ファシリテーション」を研究に取り入れる

各教科・領域で「深い学びにいたる生徒の姿」とそれに迫るための「深い学びの技法」を構想します。

そして、お互いに授業実践を共有し、研究会で成果を発表します。研究会の授業協議会で得た新たな学びを、自校で実践することで、会員が共に学び合い、共に高め合う「深い学び合い」のサイクルが活性化します。

教師の「深い学び合い」には、ファシリテーション（話し合いを促進する技法）が有効です。県中教研が伝統的に築き上げてきた下記の方法を活用し、学び合いを活性化させましょう。

	よさ	方法
<b>KJ法</b> 	参観者が授業で気付いた共通のものをまとめることで、参観者同士で新たな視点や考え方を共有できます。	①参観者が付箋に気付きをまとめます。 ②グループで付箋を出し合い、共通するものをまとめ、グルーピング、ラベリングします。 ③②について新たな視点や考え方を共有します。
<b>マトリックス法（主にKPT法）</b> 	協議題に応じて、観点別のフレームを設定し、参観者の気付きを共有します。さらに、授業の改善方法も共有できます。	①協議題に沿って、観点別のフレームを設定します。 （例）Keep（有効だった手立て）、Problem（改善すべき手立て）、Try（改善方法や代案） ②それぞれのフレームごとに、参観者の気付きを共有し、考えを深めます。
<b>指導案拡大法</b> 	授業展開に沿って、教師の働きかけが、生徒の思考や行動にどのように影響したかを分析できます。また、授業者の教授行動など細かい点も分析できます。	①本時の指導案を拡大機で複写します。 ②参観者は、授業で「教師の働きかけ」「生徒の反応」に関して、それぞれ気付いたことを付箋にまとめます。 ③指導案の流れに沿って、参観者の気付きを共有します。

**GOALS** 教師が互いに学びを深める